

論文番号 52

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Alcohol consumption as a major risk factor for the rise in liver cancer mortality rates in Japanese men

日本人男性において肝癌死亡を増加させる主要な危険因子としての飲酒習慣

執筆者

Makimoto K., Higuchi S.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

International Journal of Epidemiology 1999(1); 28: 30-34

キーワード

Alcohol, liver cancer, mortality, Japanese men アルコール、肝癌、死亡、日本人男性

要旨

背景

1970年以降年齢調整済み肝癌の死亡率は男女とも増加している。特に男性の方が女性よりも増加率が顕著である。C型肝炎と多量飲酒が肝癌死亡の日本における主要な原因であると言われている。今回、世代別、出生年別に肝癌死亡率を飲酒習慣毎に検討した。また男性の肝癌死亡に対する多量飲酒の及ぼす影響を寄与割合で示した。

方法

男女とも世代別、出生年別に肝硬変死亡率と肝癌の比としてあらわした。寄与割合は飲酒習慣が肝癌に及ぼす影響の割合として計算し、女性の肝癌死亡を標準群とした。データは、1970年から1994年に毎年出版される人口動態データを用いた。

結果・結論

肝癌での死亡を考えると、多量飲酒はC型肝炎に感染するよりも重要な危険因子であることが、日本人男性において明らかにすることが出来た。飲酒習慣が肝癌に及ぼす影響は男性で70%であることが計算された。